opusdei.org

第一章:この世界を 愛した司祭 (11Q06)

1. 私は無価値なみじめな者、しかし価値ある愛で一杯の者 (11Q06)

2010/07/15

11Q06 - しかし、エスクリバー・デ・バラゲル師は、自身の過ちを苦しみ、その思いを、「無」とか「みじめ」とか「弱点」などという強い言葉で表わしておられましたが。

11A06 - 過失に気づくと、愛ゆえに 苦しみましたが、それと同時にもっ

と恩寵に頼るようにしました。「私 は無である、何も持っていない、何 もできず、何の価値もない。ほんと うに無に等しい存在だ。しかし、主 と一緒なら全てが可能である。使徒 が次のように言っている。<私を強 めてくださる方のお陰で、私には全 てが可能です。>(フイリッピ4,13)」こ れは、多くの人々に、コンプレック スや悲しみ、悩みや内的戦いであき らめないよう教える言葉です。主は 欠点込みで人々に牛を与え、同時 に、聖性にお呼びになったのですか ら、主と一緒なら全てが可能なので す。

常に素直な道具でありたいと願っていました。1962年に次のように言っています。「神の御働きに委ねなければなりません。自己の弱さや欠点を超えて、主に信頼することです。この世の事柄には、評判とか個人的な名誉等も含めて、重要だったりめま

せん。何年も前に主に近づき次のよ うに申し上げたことがあります。御 身が私の名誉をお望みでないのな ら、どうして私がそれを望みましょ うか。このように、私は確信をもっ てオプス・デイが神のものであると 断言できます。私は何もしませんで した。邪魔をするばかりでした。そ れゆえ、全身全霊を傾けて、平安の うちに主に赦しを願うのです。オプ ス・デイの面倒を見るのは主だから です。私は日増しに神の御前で無に なる必要性を深めています。そう感 じますから。無だと。|

これが御自分に対する認識でした。 1970年3月、次のように確証しました。「私たちの個人的な力はただ、 弱さの一言に尽きます。私は全生涯 を通じてそれを体験しました。私た ちは自分の弱さにはっきり気がつく 時のみ、強くなれるのです。自分自 身の強さを頼りにするなら、すぐに 悪臭極まりない堆肥場に転がり込ん でしまいます。|

自分は無に等しく、役立たずの道具だと思うからといって、義務を心で、義務をしたりすることなどありませんで、自己の様々な欠点を知りになり、新りになり、がした。それはしませんでした。それはいる。(マタイタ、1972年3月6日、次のようにきを必ったのです。「〈医者を必有人のようになるのは、健康な人ではなく病人でするのは、はなり、12)〉この章句が私した。主よ、が必要でした。主よ、必要です。」

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/dizhang-konoshi-jie-woai-shitasi-ji-11q06/(2025/11/21)